



東中だより

No. 07 令和7年10月31日（金）余市町立東中学校 発行

校訓…「進取」「利他」

学校教育目標

- 自律…自ら考え判断し行動する
- 尊重…多様性を受け入れ対話し解決する
- 創造…豊かな発想で新たな価値を生み出す

「秋」（食欲・読書）

校長 明 村 秀 之

ここ最近、会議や研究会が多いのですが、よく聞こえてくるのは、「暑い暑いと言っていたら、もう寒い。すずしい時ってあったかな。」「秋ってこんなに短かったかな。」「秋が短すぎるような気がする。」という会話です。モイレ山の楓が赤く色づいてきれいだなと思ったら、もう雪の便りが聞こえてきました。「四季」ではなく「二季」になってしまうという話がありますが、現実になるのはそう遠い話ではないのかもしれない…とってしまいます。

さて、そんな短くなった気がする秋ですが、「食欲の秋」「読書の秋」というのは変わりません。もしかしたら、私たちの生活において、今こそ大事にしていかなければならないものかもしれないと考えています。

「食欲の秋」は、おいしいものがあふれますので、ついつい食べ過ぎてしまうことも多くなります。新米、りんごや栗、じゃがいも、さんまに秋鮭など、この季節に楽しみなものはたくさんあります。それはそれで、成長期の子どもたちだけでなく、私たち大人にとっても大切なものです。食べ過ぎはよくないですが、季節のものを食べることで健康な体づくりにつながりますし、何よりおいしいものを食べることで気分転換やリラックスできます。

「読書の秋」ですが…、学校では朝読書など一年をとおした取組を行っています。秋だけでなくともと思いますが、一年に1回でもかまいませんので、これを機会に、ご家庭での読書に関して振り返ってみるのはいかがでしょうか。

読書の効果として、下記の点がよく挙げられています。

- 新しい知識や情報が得られる。
- 豊かな言葉や表現が学べる。
- 感性が豊かになる。
- 想像力や空想力が豊かになる。
- 集中力が養われる。

- 人の気持ちがわかりコミュニケーション力が高まる。
- 自己肯定感が高くなる。
- 気持ちが安定する。
- 感動を味わえる。 など

子どもたちの健やかな成長には、不可欠で積極的にその環境を整備することが大切と推奨されています。

また、成長に応じた読書活動について下記のように言われています。

- ◇乳幼児期（0～6歳）「本に出会う」
- ◇小学生期（6～12歳）「本に親しむ」
- ◇中学生期（12～15歳）「本から学ぶ」

＜中学生期の特徴＞

多くの本の中から自分に合った本を選択することができるようになってきます。また、共感・感動する本に出会うと、何度も読むようになります。

＜保護者に期待される役割（例）＞

この時期は、例えば、子どもの趣味や興味・関心に応じた本を薦めたり、将来の夢や進路に関する本を子どもと一緒に探して読んだりするなど、読書が自分の生き方や社会との関わりがあることを子どもが実感できるようにすることが考えられます。

- ◇高校生期（15～18歳）「本と生きる」

「読書の秋」、ぜひ親子で一冊ずつ読んでみるのいかがでしょうか。

私は頭の中をリフレッシュする方法の一つとして読書をしています。今は、『夢をかなえる象0』（文庫版）と『北海道「地理・地名・地図」の謎 意外と知らない“北の大地”の不思議を読み解く！』を交互に読んでいます。にやりと笑ったり、へえ～と知識が増えたりと一人で楽しんでいます。



感染症予防にご留意ください

近隣市町村の学校では、感染症が増えている情報が毎日入っています。保護者・地域の皆様におかれましてもご自愛ください。